

### 第三節 その他

※第二節と同じく ti tu didu はティトウディ  
ドウで示す。

#### 一 数詞

##### (一) 物の数

ティーち	一つ
たあち	二つ
みいち	三つ
ゆうち	四つ
いちち	五つ
むうち	六つ
ななち	七つ
やあち	八つ
くぬち	九つ
トウー	十

##### (二) 回数

ちゅつけ	一つ
たっけ	二つ
みっけ	三つ
ゆっけ	四つ
いっけ	五つ
むっけ	六つ
ななけ	七つ
やっけ	八つ
くぬけ	九つ
トウつけ	十

※物の数で「ち」を省き「ティー」「たあ」「みい」と  
数えることもある。

##### (三) 人数

ちゅい	一人
たい	二人
みちやい	三人
ゆたい	四人
いちたい	五人
むたい	六人
ななたい	七人
やたい	八人
くぬたい	九人
トウたい	十人

##### (四) 家族

ちゅきね	一家族
たきね	二家族
みきね	三家族
ゆきね	四家族
いちきね	五家族
むきね	六家族
ななきね	七家族
やきね	八家族
くぬきね	九家族
トウきね	十家族

##### (五) 長さ

ちゅひる	一尋
たひる	二尋
みひる	三尋
ゆひる	四尋
いちひる	五尋
むひる	六尋
ななひる	七尋

##### (六) 日数

ちい	一日
ふちか	二日
みちや	三日
ゆわ	四日
いちか	五日
みやー	六日
なんか	七日

※日順では一日を「ちいたち」といい、二日以降は日  
数の読みかたと変わらない。

##### (七) 月数

やひる	一尋
くぬひる	九尋
トウひる	十尋

##### (八) 年数

やふあ	八日
くんか	九日
トウわ	十日

ちゅちき	一月
たちき	二月
みちき	三月
ゆちき	四月
いちちき	五月
むちき	六月
なないき	七月
やちき	八月
くぬちき	九月
トウちき	十月

ちゅトウ	一年
たトウ	二年
みちゆ	三年
ゆトウ	四年
いちトウ	五年
むトウ	六年
ななトウ	七年
やトウ	八年
くぬトウ	九年
トウトウ	十年

※満一年を「ゆぬや」ともいう  
(九) 稲束の量

ちゅテイブい	一束
たテイぶい	二束

ちゅちか	一束
たちか	二束

※「みテイぶい」で「ちゅちか」。「トウちか」で、苗

みテイぶい	三束
ゆテイぶい	四束
いちテイぶい	五束
むテイぶい	六束
ななテイぶい	七束
やテイぶい	八束
くぬテイぶい	九束
トウテイぶい	十束

みちか	三束
ゆちか	四束
いちちか	五束
むちか	六束
ななちか	七束
やちか	八束
くぬちか	九束
トウちか	十束

ちゅぬち	一束
たぬち	二束
みぬち	三束
ゆぬち	四束
いちぬち	五束
むぬち	六束
ななぬち	七束
やぬち	八束
くぬぬち	九束
トウぬち	十束

ちゅまるち	一束
たまるち	二束
みまるち	三束
ゆまるち	四束
いちまるち	五束
むまるち	六束
ななまるち	七束
やまるち	八束
くぬまるち	九束
トウまるち	十束

は「ちゆぬち」稲は「ちゆまるち」という。一般に「一束」「二束」……の呼び方は「ちゆたばい」「たばい」「……」という。

(一〇) 皿の数

ちゆさらり	……一皿
たざり	……二皿
みざり	……三皿
ゆざり	……四皿
いちざり	……五皿
むざり	……六皿
ななざり	……七皿
やざり	……八皿
くぬざり	……九皿
トウざり	……十皿

(一一) 茶碗の数

ちゆちやばぬ	一茶碗
たちゆばぬ	二茶碗
みちやばぬ	三茶碗
ゆちやばぬ	四茶碗
いちちやばぬ	五茶碗
むちやばぬ	六茶碗
ななちやばぬ	七茶碗
やちやばぬ	八茶碗
くぬちやばぬ	九茶碗
トウちやばぬ	十茶碗

(一二) 碗まかいの数

ちゆまかい	……一碗
たまかい	……二碗
みまかい	……三碗
ゆまかい	……四碗
いちまかい	……五碗

(一三) 鳥まかいの数

ちゆふあ	一羽
たふあ	二羽
みふあ	三羽
ゆふあ	四羽
いちふあ	五羽

(一四) 卵まかいの数

むまかい	……六碗
ななまかい	……七碗
やまかい	……八碗
くぬまかい	……九碗
トウまかい	……十碗

(一五) 田まかいの数

むふあ	六羽
ななふあ	七羽
やふあ	八羽
くぬふあ	九羽
トウふあ	十羽

(一六) 食事まかいの数

ちゆふ	……一個
たふ	……二個
みふ	……三個
ゆふ	……四個
いちふ	……五個
むふ	……六個
ななふ	……七個
やふ	……八個
くぬふ	……九個
トウふ	……十個

(一七) 節まかいの数

ちゆまし	一くぎり
たまし	二くぎり
みまし	三くぎり
ゆまし	四くぎり
いちまし	五くぎり
むまし	六くぎり
ななまし	七くぎり
やまし	八くぎり
くぬまし	九くぎり
トウまし	十くぎり

(一八) 袋まかいの数

ゆくれ	……四食
いちくれ	……五食
むくれ	……六食
ななくれ	……七食
やくれ	……八食
くぬくれ	……九食
トウくれ	……十食

(一九) 一個まかいのみかんの袋

ゆぶし	……四節
いちぶし	……五節
むぶし	……六節
ななぶし	……七節
やぶし	……八節
くぬぶし	……九節
トウぶし	……十節

(二〇) 粒まかいの数

ちゆふくる	……一袋
たふくる	……二袋
みふくる	……三袋
ゆふくる	……四袋
いちふくる	……五袋
むふくる	……六袋
ななふくる	……七袋
やふくる	……八袋
くぬふくる	……九袋
トウふくる	……十袋

(二一) 群まかいの数

ちゆつくん	……一袋
たつくん	……二袋
みつくん	……三袋
ゆつくん	……四袋
いちくん	……五袋
むつくん	……六袋
ななくん	……七袋
やつくん	……八袋
くぬくん	……九袋
トウつくん	……十袋

(二二) 踊まかいりの題数

たちぶ	……二粒
みちぶ	……三粒
ゆちぶ	……四粒
いちちぶ	……五粒
むちぶ	……六粒
ななちぶ	……七粒
やちぶ	……八粒
くぬちぶ	……九粒
トウちぶ	……十粒

(二三) 蒸留まかいした焼酎の数え方

たぶり	……二群
みぶり	……三群
ゆぶり	……四群
いちぶり	……五群
むぶり	……六群
ななぶり	……七群
やぶり	……八群
くぬぶり	……九群
トウぶり	……十群

(二四) 群まかいの数

ちゆちぶ	……一粒
------	------

(二五) 群まかいの数

ちゆぶ	……一群
-----	------

ちゆくだい	一だい
たくだい	二だい
みくだい	三だい
ゆくだい	四だい
いちくだい	五だい
むくだい	六だい
ななくだい	七だい
やくくだい	八だい
くぬくだい	九だい
トウくだい	十だい

ちゆわし	……一升
たわし	……二升
みわし	……三升
ゆわし	……四升
いちわし	……五升
むわし	……六升
ななわし	……七升
やわし	……八升
くぬわし	……九升
トウわし	……十升

※「トウわしがみあたむ」とは、十わかしかつたといふこと、即ち一斗かめ藁あつたといふこと。

### (三) 帯の教え方

ちゆさじ	……一本
たさじ	……二本
みさじ	……三本
ゆさじ	……四本
いちさじ	……五本

むさじ	……六本
ななさじ	……七本
やさじ	……八本
くぬさじ	……九本
トウさじ	……十本

### ○藁算

藁で計算することを「わらざん」といい、藁の一本一本を「さに」とよび、藁算の藁を組むことを「さにくみん」または「さに、いーゆん」といつて量をあらわしていた。

不幸があつた時、親戚から「ふあーぬ」(贈り物)が届けられたら「ちかんざに」(つかみ算)で計算していた。

### 二 対語

対語とは語格および意義の互に適應した二語を相対せしめて、配りおいた語のことで、中には同義語もあれば

並行的なもの、正反対のものもあり、対句と同じくひんばんに使用され、「おもしろさうし」には千三百余種使用されているが、永良部語の中にもわかつていたので次のように百余種がある。

それを五十音順に記してみると次の通りであるが、南島語が三母音であるということにかかわりがあるのであろうか、え列お列に属するのは少なく僅かに㊶㊷㊸㊹の四音に六種がある。

### 記

㊶ あいなきない。あいえふくえ。あぎたいさぎたい。あぐまじやだろさ。あしはいみじはい。ああらはたら。あまはいまあはい。あまいいまあいい。あぶりこうぶり。あがいさがい。あまぐまめく。あやじるをうじる。あちえふえ。

㊷ いちゆまひま。いばしちまあしち。いばしちこうしち。いんじきんじ。いちむはちむ。(いちまちむ)。いちたいへえたい。いちやテイろはっテイろ。

㊸ うらないへえない。うだかふいか。うちなぎへえなぎ。うトウしちやあし。うつちやみひつちやみ。うつ

- ちただち。うつちかつち。うりぬぶい。うんぶいこうぶい。うらみこうみ。うらむいこうむい。みーじへえーじ。うつちえひつちえ。うつしよむしよ。うしなぎへえなき。うぶるこうぶる。うむぬじほうむじ。
- ㊶ かくしもうし(はくしもうし)。
- ㊷ きたなさやなきや。きりこやのこ。
- ㊸ くるしるをうじる。くるだいをうだい。くんにやくんにや。
- ㊹ さがやなまや。さがいなまい。
- ㊺ しいさあまき。しいなしみいなし。しいちちめえちち。しいめえ。じまんこうまん。しじはいこうはい。しるびらこうびら。しちやたいこうたい。しぶらこうぶら。しばねくちね。しつちやはつちや。
- ㊻ すつちひつち。
- ㊼ たんこまんこ。
- ㊽ ちやあトウみじトウ。ちじよしはじよし。
- ㊾ ティいよまによ。ティいがまろしや。
- ㊿ トウ トウんげひんげ。トウやちみひやあちみ。トウびやがいみやあがい。
- ト とつちのへんぶ。

- ㊶ なちかしかくりしや。ながだいをうーだい。なくた いほうたい。
- ㊷ にぶやほうや。にドウいフアドウい(根問い葉問い)。にーティいはっティ。にんじゆさんじゆ。
- ㊸ ぬまばいこうばい。ぬずりこうずり。
- ㊹ はくしもうし。はたドウゆドウ。はたはらゆうはら。
- ㊺ ひろりはろり。びらたいこうたい。
- ㊻ ふうちてえち。ふディひちやい。
- ㊼ へえないにしない。へえにし。
- ㊽ まがやひがや。まきにつちや。
- ㊾ みいじへえじ。みじらしやひんましや。みいしるはなしる。みいはいくちはい(目張い口張い)。みいみてえでい。みしやいやあしや。みーひちはなひち。みやてなあて
- ㊿ むやきひちやき。むつちひつち。
- ト やりこきり。
- ト ユぬぶいこうぶい。
- ト ようりとおり。ようしやくいしや。
- ト わいわい(わやわや)。がやがや。

② きうドウやはにや。

### 三 方言五首詠

永吉 毅 作

- (一) 候へと 声かけゆけば めん候への  
 応答ゆかしき 島の明けくれ
- (二) 拝み侍ら 有侍らんも 死語なれど  
 わが住む島に ありてなつかし
- (三) 何事も 移り変りの多き世に  
 「応報」の応答 きくはたのもし
- (四) 言霊の 幸ふ国の島に住み  
 清き語らい 聞くもゆかしき
- (五) あやまちて ロサへらせし島訛り  
 みやび言葉は 語りつぎゆけ
- (一) 郷土十首詠 安藤佳翠 作  
 見おくりの人もさらばと皆おりて  
 船は動きぬ 錨もまきぬ
- (二) 向き向きに座席定まりくつろげば
- (三) 親しみかはすおなじ島びと  
 視界よりすでに岬の灯は消えて  
 夜の灘路を一路南下す
- (四) 並よろふ山に汽笛はこだまして  
 船は古仁屋の岸辺へと寄る
- (五) 国頭の 岬めぐれば 長浜に  
 つづく家並みの 町も見えそむ
- (六) たまきはる 生命たもちて 今ぞ踏む  
 魂の故郷 みおやの土を
- (七) 島影は浪に浮かべりたらちねの  
 御祖の土よ明日こそ踏まめ
- (八) 風吹けば靡き起き伏し甘蔗の葉の  
 さやさや 鳴りし古里の畑
- (九) 灘路はててすがしき朝よわが前に  
 奄美大島いよ展開す
- (十) 内海はゆたにたゆたに並みよろふ  
 山は太古の静けさにあり